

第5回 観音寺市民会館開館準備実行委員会【要約】	日時 平成27年5月27日(水)19:00~21:00
	場所 観音寺市役所 2階 201会議室
出席者	委員12名(欠席2名)、事務局3名、事務局補2名
議題	(1)第4回議事録(要約)について (2)プレ事業について (3)開館記念式典について (4)その他
<p>1. <u>開会</u> 開会のあいさつ。</p> <p>2. <u>委員長あいさつ</u> 委員長のあいさつ。</p> <p>3. <u>議題</u> (1)<u>第3回議事録(要約)について</u> 資料を元に議事録(要約)について説明。確認の後、内容を承認。 承認された議事録を市のホームページで公開する。</p> <p>市内で活動されている文化芸術団体と個人に関する調査について説明。 修正や追加情報を加え、次回以降も委員と市が協力しながら引き続き調査を続けることとする。</p> <p>(2)<u>プレ事業について</u> 資料を元にプレ事業について説明。</p> <p>【委員質問】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回の委員会でも市から説明があったように、広報活動は今年27年度から実施することが決定しているが、公演やイベント等のプレ事業はいつから開始するのか。 <p>【事務局回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・28年度からの実施を考えている。 <p>【委員意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新市民会館の会場を利用して実施できるプレ事業は、1~3月の3カ月である。それまでは、大野原会館など市内の既存施設を利用したプレ事業となるだろう。 <p>【委員意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業を実施する場所についても調査をしたほうがよい。前回の委員会では、かまぼこ音楽堂、朝日湯ギャラリーなどが出ている。合わせて意見を頂戴したい。 <p>【委員意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレ事業は入場料の値段設定に配慮しなければならない。岡山でも3000円は高いと聞く。岡山シンフォニーが満席になる頻度も年々減少しているようだ。 <p>【委員意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入場料が3000円で1200席が満席になると収入は360万である。これ以上の支出となる場合、何かしら予算を確保しなければならなくなる。 <p>【委員意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレ事業は、公募するのか、それとも指名か。公募の場合、幅広く募集し応募すれば誰でもできるようにするのか。 <p>【委員意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何をプレ事業とするかを定めるための基準が必要ではないか。 <p>【委員意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新市民会館の完成後、中長期的に文化芸術を育成してゆく視点も重要。基準を設ける必要は 	

あるが、優劣がどうであるということだけではなく、市民皆が楽しんだり、優れた芸術に触れたり、参加したりできるようなものになるべきである。

【委員意見】

- ・既存の事業をプレ事業とするか、新しい事業を立ち上げるのかの2つに分類できるだろう。その際、どの事業をプレ事業とするか審査が必要になると考える。

【委員意見】

- ・既存の事業をプレ事業とした場合、市はどのように関わるのか。公演名に「新市民会館プレ事業」と冠を付けるだけか、それとも金銭的な補助が出るのか。

【委員意見】

- ・県の芸術祭等で補助金を頂く場合、最低5万、最高30万であった。自ら申し込んで、プレゼンテーションを行い審査を受けた。その審査結果によって、冠だけのチーム、補助金を貰えるチームと仕分けされた。

【委員意見】

- ・県民ホールで毎年「さぬきのまつり」という公演がある。これは立候補方式で補助金は一律10万であるが、応募するためには県の民芸連に入っていないといけない。

【委員意見】

- ・補助金はなくとも、プレ事業に選ばれることで「その団体や個人の活動はしっかりとしたものだ」という付加価値が付くのではないか。

【委員意見】

- ・プレ事業にかかる費用は広告費だと考えることもできる。

【事務局回答】

- ・具体的な金額は未定だが、金銭的な補助はプレ事業を実施していくうえでの選択肢には入っている。今後議論が進行し意見が出揃った段階で、事務局から具体的な数字案を提示し、それについて更に議論いただけるようにしたいと考えている。

【委員意見】

- ①具体的な予算はこれからだが、例えば上限30万で公募し、企画によっては予算を出す。
 - ②広報費としてチラシの印刷費程度を補助する、または施設の冷房代を免除する。
 - ③金銭的な補助はないが、市の広報に載せる、バスの広報に入れる。
- というような3つのパターンで考えてみてはどうか。

【委員意見】

- ・活動の規模やレベルに応じるという方法は賛成である。次に、募集していることをどのように周知するかが課題だ。例えば、市の合併記念のための事業を実施しているが、募集していたことを全く知らなかった。現在データベース化を進めている、市内で活動されている文化芸術団体と個人に関する調査が役に立つと考える。その際は、もれなく周知し「なぜ私には言ってくれなかったんだろう」とならないようにしなければならない。

【委員意見】

- ・市の広報、インターネット、口コミ等ありとあらゆる手段で周知する必要がある。

【委員意見】

- ・地域の商店街の地域振興券を活用してはどうかという意見が出たが、今年度は既に決まっているため、実施するならば来年度となる。来年度は10月後半からスタートする。企画は3月、4月から動き出す。途中から参加するのは難しいので、早めに連携を取る必要がある。観音寺市の商工観光課、観音寺商工会、大野原商工会、豊浜商工会と一緒にやっている事業なため、この地域振興券に「祝観音寺新市民会館開館」と銘打つことができれば、多くの方に行きわたると考えられ、広報としては効果的である。

【委員意見】

- ・記念グッズ等を作成するのはどうか。プロのアーティストと一緒に小学生が参加できるような事業をという意見が出ている。画家やイラストレーターの方を招き、ワークショップで絵を

作成し、その絵を利用してTシャツやタオルなどを製作できないか。例えば、数年前になるが、たいぞう絵画ワークショップが実施されたことがある。

【委員質問】

- ・愛称の募集、ネーミングライツ、ロゴマークに関してはどこまで決まっているのか。

【事務局回答】

- ・まだ正式に募集すると決まったわけではなく検討中である。

【委員意見】

- ・もっと市の広報を活用すべきである。小さくてもよいので継続的に毎月記事を掲載することで、見落とした方も気が付きやすい。

【事務局回答】

- ・市の広報に関しては、建設工事の進捗状況を2カ月に1回掲載する予定である。もちろん、開館が近づけば毎月掲載することを計画している。ただ、現在は工事が始まったばかりで掲載できる内容が少ない。

【委員意見】

- ・掲載方法を工夫してはどうか。例えば「大ホールの客席数は何席でしょう」というようなクイズ形式にし、最後のページに答えが載っているというのはいかがでしょうか。毎月楽しみながら新市民会館の情報を知ることができる。現在確定している情報を少しずつ複数回に分けて掲載していくとよいのではないか。

【委員意見】

- ・建設工事の経過写真も掲載できればよい。

【事務局回答】

- ・毎月、定点で撮影をしており、市のHPなどで掲載したいと考えている。

【委員質問】

- ・何らかの基準や区分を設け、プレ事業を募集するとして、応募できる地域はどこまでとするか。例えば、市内限定とするのか、幅広く市外から募集するのか。

【委員意見】

- ・市内がよい。市内在住、もしくは観音寺出身の方と限定する。

【委員意見】

- ・団体の場合は全員が市内在住でなくてもよい。

【委員質問】

- ・プレ事業は指定管理者とは別と考えてよいか。

【事務局回答】

- ・基本的には指定管理者が行なう事業とは切り離れた事業である。しかし、事業の内容によっては何らかのサポートをお願いすることもあるかもしれない。

【委員質問】

- ・開館記念事業などを実施する場合、公演の内容や予算などの決定権は指定管理者と市どちらが強くなるのか。

【事務局回答】

- ・開館記念事業の内容に関しては市が主催者となる。開館年度に指定管理者が指定管理料の中で別途事業を行うことはある。

【委員意見】

- ・観音寺信用金庫本店6階でミュージカル公演を実施した時は、大道具類の搬入出や設営に苦労した。また、幼稚園で実施した時は、リハーサルの時間もままならなかった。これらの公

演は、まちなか活性化という目的があったため、こういった場所で公演をすることになり、もちろん達成感もあり感動もあった。しかし、劇場やホールのような専門的な設備や人材の整っていない場所で公演をすることはとても大変である。今後は新市民会館で継続的に活動をしたいと考えている。現在観音寺には市民会館がないのでマリンウェーブで公演をした。マリンウェーブは専門的な設備や人材が整っているので公演を実施しやすかった。新たに新市民会館が完成したとしても、観音寺市から活動の拠点が離れてしまうのではという懸念がある。新市民会館の開館と共に成長していきたいという強い思いがある。ぜひプレ事業から市内で活動している文化芸術団体や個人をサポートして欲しい。

【委員意見】

- ・ 開催する場所も大切である。市が合併した年に記念として、和田雨乞い踊り、田野々雨乞い踊り、竜王太鼓の3団体が集まり、豊稔池で公演をするという企画があった。無形文化財と有形文化財のコラボレーションと銘打って周知したところ、当日アマチュアカメラマンが大勢駆けつけた。設備や人材が整った専門的な場所での公演ではなかったが、宣伝効果や達成感というのはひとしおである。プレ事業としてこういった活動をどうサポートしていくかも課題である。

【委員意見】

- ・ 新市民会館では育成普及事業を実施していくという方針があり、市民の文化芸術活動をどうサポートしていくのかということが課題でもある。例えば、広報活動の支援も育成サポートと考えられる。個人で活動しているのは広報活動が限定されるが、新市民会館のプレ事業として指定され、市の持つ広報媒体を使って情報を発信することで、多くの市民の目に触れる機会や、関心を持つ方が増え、活動に参加する方や公演を観に来る方が増える。このような好循環をつくり、これを新市民会館に繋げていくというシステムをプレ事業の段階から構築していくことが望まれる。

【委員意見】

- ・ プレ事業に関してはおおむね意見が出尽くしたと言える。今年度の途中から何らかの基準を設け募集をかけプレ事業を進めていくということを委員会の結論とする。

(3)開館記念式典について

資料を元に開館記念式典について説明。

【委員意見】

- ・ 開館記念式典は1日で実施し、1年か半年かまだ期間は具体的ではないが、開館記念事業を継続的に実施していく方法がよいと考える。

【委員意見】

- ・ 開館記念式典を1日で実施するのは時間が短すぎると感じる。例えば、土曜に式典と市民参加公演を実施し、日曜に優れたプロの公演等を実施するという考え方もある。

【委員意見】

- ・ 今のお話にある日曜の公演は、開館記念式典時の公演としてではなく、開館記念事業の公演と位置づけることもできる。あくまで式典は1日のみの開催が望ましいと考える。

【委員意見】

- ・ 開館記念式典時の公演は、市民が中心となってやるということが委員会としての意見として結論が出ている。優れたプロの公演等はぜひ開館記念事業で実施していきたい。

【委員質問】

- ・ 開館記念事業と指定管理者とはどう関係するのか。

【事務局回答】

- ・ この委員会で議論している内容は、指定管理者とは別に市が主催で実施する。

【委員質問】

- ・指定管理者は 27 年度に決まるのか。

【事務局回答】

- ・スケジュールを調整中である。27 年度中もしくは 28 年度の初め頃には決定したいと考えている。

【事務局回答】

- ・新市民会館で行う公演等が、どの機材をどのように使えば可能になるのかという打合せには、指定管理者のアドバイスが必要になる。遅くとも新市民会館の利用受付を開始する時期からは指定管理者には入っていただくことになるだろう。

【委員意見】

- ・習熟期間が 4 カ月だが訓練期間としては十分なのか。県民ホールの際は習熟期間が短かったため、開館時には外部から大勢応援に人が来ていた。

【委員意見】

- ・少なくとも習熟期間にいくつかの公演を実施しながら訓練する必要があるだろう。

【委員意見】

- ・開館記念式典に実施する公演も重要だが、開館記念事業についても考えなければならない。開館記念事業を実施する期間は未定だが、何かスケジュールのようなものがあるべきではないか。例えば、市民ミュージカルを公演する日、第九を盛り上げる日、和楽器の日、優れたプロを招聘する日など上手く日程を組まなければならないと感じる。今年の 11 月頃から始めていく必要があると考える。

【委員意見】

- ・月に 1 回は公演を実施してはどうか。全体の予算が少なく、市民の文化芸術団体の公演などに予算が付かないかもしれないが、そういった場合は、組織や人材やノウハウなどを提供できるバックアップ体制があればよいと考える。

【委員意見】

- ・市がサポートやバックアップするが、主体となって公演やイベントを実施する団体や個人が一番パワーを使う。お互いにサポートし合える体制を整える必要がある。公演回数を多くすることも大切だが、あまり力み過ぎると、1 年で活動が終わってしまうかもしれない。これから観音寺市の文化芸術活動を発展させていくのだという気持ちも大切に、中長期的に事業を継続できるようにしたい。

【委員意見】

- ・どれだけの人が集まるかによって新市民会館が成功したかがわかると言ってもよい。人が集まるような事業を実施しなければ、ただ器をつくただけになってしまう。毎月何かしらの事業を実施するよう努めたい。特に初年度は出来る限りのことをやらなければもったいない。

【委員意見】

- ・開館記念事業で、既に市内で活動している文化芸術団体や個人がバージョンアップした公演をしたいという声があるならば、何らかの援助をするということについても今後議論を行うべきだ。

【委員意見】

- ・キッズフェスティバル等を開館記念事業で実施する場合、子どもたちに「なぜ出たんだろう」という疑問が残らないように、ある程度の完成度やレベルを担保し、新市民会館の舞台に立てることが何らかのステータスになるようにしたい。

【委員意見】

- ・市民音楽祭などもあるが、これまで一緒に公演をする機会がなかった個人や団体が、一緒になにか出来る公演があるといい。

【委員意見】

- ・文化協会も支部活動が中心であり、発表も別々に実施している。まだ具体的には決まっていないが、この機会に合同で発表ができればと考えている。

【委員意見】

- ・舞台を埋めることも大切だが、客席も埋まるように公演の周知に努めなければならない。市民のキャパシティも決まっている。市外近隣から呼び込むことも必要である。

【委員意見】

- ・市の広報というのは効果が大きい。小さな活動でも記事が掲載されていれば、それを読んで新聞記者やファンが来場し、宣伝費を1円も出さずに宣伝ができたという例もある。効果的に広報を打つことは情報発信をする上で重要である。

【委員意見】

- ・市としてもタイムリーに情報を発信できるように新聞社に積極的にアピールするよう心がけている。最近はその効果も出ている。

【委員意見】

- ・開館記念式典については、式典の他に市民が参加する公演を実施するという委員会の意見は固まった。しかし、今後議論を進めるためには、具体的な話をする必要がある。市民が中心となると早く動き出さなければならない。次回までに、事務局からいくつか案を提示していただきたい。

(4)その他について

【事務局意見】

- ・今回は、6月22日(月)19時から観音寺市役所2階会議室にて開催を予定している。

4. 閉会

閉会のあいさつ。

以上